

日本における韓国語教育の現状と課題

呉 英 元

はじめに

国際化のすすむ現代は、IT (Information Technology) 時代ともいえるほど英語が分からなければインターネットもパソコンも自由に使えない時代となり、世界の情報のみでなく、人々の交流によって各国の文化や言語が身近になった。ことばを中心に文化の異なる人々が出会い、ともに連絡しあって、情報を得たり活動するチャンスが増えていくことに伴って、隣国同士の国際交流は当然のこととなってきた。超国家、超民族、超情報を提供するグローバルな視点で、若い世代のために外国語教育と文化理解教育はどうあるべきであろうか。

本稿は、現在日本の高等学校と大学における韓国語教育の実態を究明し、今後のアジアの情勢変化の流れに沿う韓国語教育や韓国関連科目の教育政策に役立つ一課題として提案するものである。

1. 日韓情勢の変化と韓国語教育

現在、日本における韓国語教育に関する状況は大幅に変わってきた。2000年6月現在、駐日韓国大使館教育官室の実態調査によれば、日本における大学、短期大学、高等学校で韓国語と韓国関連科目講座を設置運営している学校は合計367校となっている。全国622大学のうち25.89%にあたる161校が韓国語と韓国関連講座を実施しており、短期大学585校のうち44校が、高等学校5,481校のうち162校が実施していて、それぞれ7.52%と2.77%を占めている。大学での講座を担当している教員は、

短期大学を含めて計422名であり、受講者総数は21,713人となっている。

一方、韓国側の日本語教育状況は、1998年現在、日本国際交流基金の調査によれば、日本学等の専門学科を持つ大学は61校、大学院は34校で、合計95校であり、学習者総数946,857人のうち、高等学校での学習者数が147,186人、初中等学校での学習者数が731,416人となって、いずれも日本より高い数字を示している。

本年9月の日韓首脳会談において、2002年度から大学入試センター試験に外国語科目として韓国語が導入されることが決まった。また、本年11月22日付の韓国「朝鮮日報」の記事によれば「ソウル大学は‘早ければ来年初めに教養課程の第2外国語科目に日本語講座を新設する計画’であることを明らかにした」となっている。このことは、本年の6月にソウル大学と東京大学がそれぞれ日本学・韓国学課程を開設することを決めた政策の一環である。ソウル大学での日本語教育導入が決定されたことは、日韓文化交流とともに学界における新しい学問の発展をもたらすことと思われる。

学校教育以外でも韓国語に関する社会情勢が変わってきた。1984年4月からNHKテレビ・ラジオでハングル講座が開始されて今年で17年目を迎える。1984年に続いて1988年のソウル・オリンピック開催の影響によって、韓国語学習者が急速に増えたことも注目される。特に90年代後半に入ってから日本は韓国との交流が非常に密接になり、高等学校や大学で韓国語を取り組む学校が着実に増加している。修学旅行で韓国や中国を訪れる学校も年々増えているし、姉妹校関係や協定校を結んでいる学校も数多くある。1998年6月、金大中大統領の訪日のとき発表された韓国における日本文化の開放政策によって、年々映画、演劇、音楽、展示会など輝かしい日韓文化交流が盛んになっている。また、2002年のW杯日韓共同開催や、韓国において本年6月、分断55年ぶりに南北首脳会談が開かれ、成功に至ったことによって、世界の視線を集めたアジア平和への期待と韓国に対する関心も高まってきたと思われる。こうした交流が言語教育と結びつくことによって、お互いの理解をさらに深めることになる。

2. 高等学校における韓国語教育の現状

(1) 開始年度別に見た韓国語講座

1999年6月に発表された国際文化フォーラムの調査によれば、開講予定校を含め、1999年3月までに取り組み校165校を確認したとなっている。

165校を対象にしたアンケートによる韓国・朝鮮語の講座数を地域別に見ると<表1>に見られるように大阪が公立26校、私立6校、計32校で最も多く、次に広島の公立11校、私立5校、計16校である。10校以上の地域としては東京が3番目で公立9校、私立3校、合わせて12校で、4番目は兵庫の公立10校、私立1校の計11校になっている。

また、韓国・朝鮮語の講座開始を年度別にみると、<表2>に示したように1980年代後半から増加していて、1987年度から1998年度にかけて年平均開始校が9.4校となっている。1969年以前は公立15校、私立7校の全国合わせて22校であったが、その後30年間で143校が増えて全部で165校開講されるようになった。その中でも特に1994年度は21校、1997年度は22校、1998年度は21校の比率で増加している。1984年度NHKの「アンニョンハシムニカ? ハングル講座」と1988年度の世界オリンピックが韓国で開催された年度を中心にこの講座の増加したことがよくわかる。

現在確認されている日本全体の高等学校における韓国・朝鮮語の講座開講校は公立113校、私立

〈表1〉地域別に見た韓国・朝鮮語講座

都道府県	韓国・朝鮮語		
	公立	私立	合計
北海道	1	2	3
青森	2	1	3
岩手	1	2	3
宮城		2	2
秋田			
山形		2	2
福島			
茨城			
栃木			
群馬		1	1
埼玉		4	4
千葉	1	1	2
東京	9	3	12
神奈川	5	1	6
新潟	1		1
山梨			
長野	2	1	3
富山	1		1
石川	3		3
福井		2	2
岐阜	1		1
静岡			
愛知		1	1
三重	1		1
滋賀	4	1	5
京都	2	4	6
大阪	26	6	32
兵庫	10	1	11
奈良	1	1	2
和歌山		1	1
鳥取	4		4
島根	3		3
岡山			
広島	11	5	16
山口	2	1	3
徳島			
香川			
愛媛	2		2
高知			
福岡	4	4	8
佐賀	4		4
長崎	1		1
熊本	2	3	5
大宮	3	3	6
分岐	3	1	4
鹿児島	1		1
沖縄	2		2
合 計	113	52	165

〈表2〉 開始年度別に見た韓国・朝鮮語

年度	韓国・朝鮮語		
	公立	私立	合計
未定	2	2	4
2001	1		1
2000	3		3
1999	11	2	13
1998	18	3	21
1997	18	4	22
1996	9	2	11
1995	4	3	7
1994	9	12	21
1993	5	3	8
1992	4	2	6
1991	4	2	6
1990		2	2
1989	1	1	2
1988	1	1	2
1987	1	4	5
1986			
1985		1	1
1984			
1983			
1982	1		1
1981			
1980	1		1
1979			
1978	1		1
1977	1		1
1976	1		1
1975	1		1
1974			
1973	1	1	2
1972			
1971			
1970			
1969以前		2	2
不明	15	5	20
合計	113	52	165

52校で、合計165校である。

(2) 開始年度別に見た講座名

日本における韓国語の講座名は「ハングル」「韓国語」「朝鮮語」「韓国・朝鮮語」と様々である。朝鮮、韓国の南北分断の反映とも言えようか。講座名もそれぞれ違うのである。最初NHKのテレビ番組においても講座名をどうするかについて色々な意見が出たが結局「アンニョンハシムニカ」に決めてしまった。これはのちに使用しなくなったが、「ハングル語」という新しいことばが生まれることになった。

〈表3〉は講座名を開始年度別に見たもので、公立校の約半数がハングル、私立校の約半数が韓国語を講座名として使っている。

公私立別にみると、韓国語を講座名に使っている学校の67.6%が私立校で、「ハングル」と「韓国語」の使用動機については、1984年度に始まったNHKのハングル講座の「ハングル」や1988年に開催された韓国ソウル・オリンピック「韓国」の影響などが考えられる。以上のように「ハングル」講座名59校、韓国語343校、朝鮮語28校、韓国・朝鮮語19校で、公立94校、私立46校、計140校の学校の講座名が明らかになっている。

(3) 履修形態と単位数

〈表4〉は履修形態ごとの学校数である最も多いのは自由選択で67校、そのうち

＜表 3＞ 開始年度別に見た韓国・朝鮮語

年度	ハングル			韓国語			朝鮮語			韓国・朝鮮語			合 計		
	公立	私立	計	公立	私立	計	公立	私立	計	公立	私立	計	公立	私立	計
未定	1		1										1		1
2001	1		1										1		1
2000	1		1				1		1	1		1	3		3
1999	5		5	2		2	1		1				8		8
1998	8	1	9	2	1	3	3		3	3	1	4	16	3	19
1997	9	3	12	3		3	3		3	2	1	3	17	4	21
1996	5		5	2		2		2	2	1		1	8	2	10
1995	2	1	3	1	1	2	1		1		1	1	4	3	7
1994	5	2	7		8	8	1	2	3	2		2	8	12	20
1993	2	1	3		1	1				3		3	5	2	7
1992	2		2		2	2	2		2				4	2	6
1991	2	1	3				1		1	1	1	2	4	2	6
1990		1	1								1	1		2	2
1989	1		1		1	1							1	1	2
1988				1	1	2							1	1	2
1987					3	3	1	1	2				1	4	5
1985		1	1											1	1
1982							1		1				1		1
1980							1		1				1		1
1978							1		1				1		1
1977							1		1				1		1
1976							1		1				1		1
1975							1		1				1		1
1973							1	1	2				1	1	2
1946					2	2								2	2
不明	3	1	4		3	3	1		1	1		1	5	4	9
合計	47	12	59	11	23	34	22	6	28	14	5	19	94	46	140

＜表 4＞ 履修形態で見た韓国・朝鮮語

履修形態	韓国・朝鮮語			%
	公立	私立	合計	
自由選択	54	13	67	53.2
必修選択	33	9	42	33.3
必修	3	9	12	9.5
必修選択+自由選択	1		1	0.8
必修+必修選択		1	1	0.8
その他	2	1	3	2.4
合計	93	33	126	100

公立54校、私立13校となっていて全体の53.2%を示しており、次に多いのが必修選択で42校、必修が12校、必修選択と自由選択が1校、必修と必修選択が1校、その他3校という順で合計126校になる。

＜表 5＞は履修単位数の多い取り組み校を示したもので、福井県

の敦賀気比校が28単位、大阪の金剛学園13単位、佐野工業定時制が12単位、建国校が9単位、山口県の下関国際校が9単位、大阪の長吉校が7単位、それ以外はほとんど6単位である。

一科目単位はほとんどが2単位と4単位の構成になっている。

(4) 韓国・朝鮮語の学習者数

＜表6＞は学習者数を表したもので、韓国・朝鮮語の学習者数は2名から10名が公立12校、私立2校、計14校で全体の22.2%になる。

学習者数	韓国・朝鮮語			%
	公立	私立	合計	
2～10	12	2	14	22.2
11～20	7	9	16	25.4
21～30	4	2	6	9.5
31～40	6	2	8	12.7
41～50	2	2	4	6.3
51～60	1	1	2	3.2
61～70	1	2	3	4.8
71～80	0	0	0	0
81～90	0	0	0	0
91～100	1	0	1	1.6
101以上	5	4	9	14.3
学校数	39	24	63	100
学習者数	1589	1687	3276	

＜表5＞ 履修単位数の多い学校

学校名	都府県	単位数
敦賀気比	福井	28
金剛学園	大阪	13
佐野工業定時制	大阪	12
建国	大阪	9
下関国際	山口	9
長吉	大阪	7
酒田南	山形	6
花巻南	岩手	6
南葛飾定時制	東京	6
上田西	長野	6
同志社国際	京都	6
今宮工業定時制	大阪	6
阪南	大阪	6
神戸甲北	兵庫	6
湊川	兵庫	6
青谷	鳥取	6

11名から20名の受講者数は公立が7校、私立が9校、計16校で25.4%になる。21名から30名の受講者は6校で9.5%、31名から40名の受講者は8校で12.7%を占める。19名から100名の受講者も1校があり1.6%になるが、101名以上の受講者も9校あり14.3%の比率である。この学習者総数3,276名のうち公立が1,589名、私立が1,687名になる。

＜表7＞は特に学習者数が多い学校を示したもので、学習者数が100名を超える学

校10校のうち4校が私立で上位6校は韓国への修学旅行を実施している。大分の楊志館校が464名で1年全員必修である。この場合は1993年度の韓国との交流で修学旅行を行うための学習である。

<表 7> 学習者数の多い学校

学校名	都府県	学習者数	履修形態	開始年度	韓国との交流
楊志館	大分	464	1 年全員必修	1993	修学旅行
酒田南	山形	315	各学年必修	1994	修学旅行
唐津商業	佐賀	210	商業科 2、3 年必修 + 自選	1992	修学旅行
菊池農業	熊本	207	1 年全員必修	1997	修学旅行
早鞆	山口	180	普通科、商業科、家政科 2 年必修	1992	修学旅行
建国	大阪	169	各学年必修	1946	修学旅行
湊川	兵庫	135	普通科（定時制） 2 - 4 年必修	1973	
尼崎工業	兵庫	130	外国語科朝鮮語コース自選	1975	
西成	大阪	126	普通科 2、3 必修	1976	
南葛飾定時制	東京	100	普通科（定時制） 2 - 3 年必修	1982	

山形の酒田南315名、佐賀の唐津商業210名、熊本の菊池農業207名、山口の早鞆180名、大阪の建国169名、兵庫の湊川135名、尼崎工業130名、大阪の西成126名、東京の南葛飾定時制100名も修学旅行との関連の学習であることがわかる。

(5) 担当教員数と教員免許

<表 8> 免許で見た担当教員数

韓国・朝鮮語		教員数	%
免許の科目と種類			
朝鮮語	朝鮮語のみ	11	37.3
	朝鮮語 + 英語	5	
	朝鮮語 + その他	3	
	小計	19	
臨時免許	臨時免許のみ	6	15.7
	臨時免許 + 英語	2	
	小計	8	
他教科	英語	7	47.1
	国語	4	
	音楽	3	
	商業	2	
	社会 + その他	2	
	農業	2	
	その他	4	
	小計	24	
	合計	51	100

<表 8>の教員免許の場合、朝鮮語の教員免許を持っている数は19名で臨時免許が8名である。韓国語を教える資格や実力を持っている教員数は計51名であるが、そのうち英語や他教科の免許を持って韓国語を教えている教員数は24名になっている。こういう教員のためにも免許取得につながるようなシステムが必要である。

<表 9>は担当教員数を職名で見た場合で、1997年度の調査によれば、ALT (Assistant Language Teacher) が3名、教諭が34名、講師が60名、その他4名で、

<表9> 職名で見た担当教員数

職名	韓国・朝鮮語 97年度	%
講師	60	59.4
教諭	34	33.7
ALT	3	3.0
その他	4	4.0
合計	101	100.0

講座を担当する教員としては延べ101名となっていて、講師が最も多い59.4%を占めている。複数の学校で教えている教員も多く、実際の人数はこれより少ないと思われる。

3. 日本の大学における韓国語の設置

(1) 国立大学の韓国語設置

1945年より1998年度までの韓国語講座の設置は、教養学部あるいは文学部、言語文化学部、教育学部、朝鮮語科、韓国語学科、アジア文化、人文学科、国際社会科学、国際文化学科、社会人類学科、経済学部などの学部、学科のなかにセクションを設けて学習している。全国で30校、教員数は81名、学生数は約3,498余名を数える。

学生数の多い福岡の九州大学は881名で、次は一橋大学で316名の受講者がいる。大分大学の教育学部には250名の受講生がいて、信州大学の教養学部の韓国語講座で220名、大阪外国語大学の朝鮮語学科で230名の学生が受講している。大阪外国語大学の教員は20名にもなる。東京外国語大学の朝鮮語科は158名の学生と7名の教員である。

<表10>統計参考

(2) 公立大学の韓国語設置

公立大学も教養学部、経済学部、国際文化学部、看護学科、アジア文化コース等の学部に韓国語講座を1981年度から1999年度まで設置している。教員数は21名で受講学生数は約1,032余名になる。受講学生は大阪が206名で次は長崎143名の順である。山梨80名、群馬86名、大分80名、兵庫79名で大学数は15大学である。

<表11>統計参考

(3) 私立大学の韓国語講座設置状況

1927年度より1999年までの72年間に韓国・朝鮮語講座を設置した私立大学は105校にもなる。設置状況は、教養学部、国際文化学部、外国学部、人文学部、文学部、国際関係学部、地域文化学部、経済学部、地域言語、経済情報学部、比較文化学部、現代文化学部、東アジア地域語学科、言語文化教育、商学部、社会福祉学科、看護学科、国際コミュニケーション科、国際関係学部、ハングル講座、韓国語講座、朝鮮学科、第二外国語、第一外国語等の学部と学科、あるいは科目名で講座を開いている。教員数は約249名であるが、学生受講生は約14,818名である。

学生数の一番多い大学は福岡の九州産業大学の教養学部で、1,812名、教員数は12名になる。2番目は597名で福岡国際大学の国際コミュニケーション科であり、3番目は京都の立命館大学の567名である。4番目は福岡の東日本国際大学のハングル講座で約400名の学生がいる。

300名以上の受講生がいる大学は早稲田大学（340名）、京都の大谷大学（319名）、熊本学園大学（300名）、京都の仏教大学（308名）である。

受講生200名以上の大学は、関西外国語大学、法政大学、京都学園大学、中京大学、武蔵野女子大学、甲南大学、呉大学、立正大学、二松学舎大学、広島国際大学、東京家政学院筑波大学、同志社大学、上智大学、拓殖大学、九州国際大学、久留米大学である。

受講生100名以上の大学は、天理大学（175名）、大阪芸術大学（161名）、大正大学（107名）、昭和女子大学（103名）、東京国際大学（176名）、新潟経営大学（100名）、神田外国語大学（115名）、関東学院大学（125名）、恵泉女学園大学（180名）、帝京大学（126名）である。受講生100名以下は44校である。　　<表12>統計参考

(4) 短期大学の韓国語講座設置状況

1981年度より1997年度までの16年間に短期大学34校に設置され、教員数44名で「ハングル語」「韓国語」「コリア語」「朝鮮語」「教養科目」等の学科名で2,159名の学生製が学習している。

受講生の多い順でいえば、熊本学院大学短期大学講座名「韓国語」300名、教員数6名である。次は180名の受講者をもつ平安女学園短期大学の講座名「コリア語」である。3番目は163名西南女学院短期大学講座名「ハングル語」、4番目は158名の京都経済短期大学講座名「コリア語」であり、5番目は100名の大阪産業大学短期大学講座名「朝鮮語」である。それ以外は100名以下の学生数である。

＜表13＞統計参考

結び

現状の問題と課題

以上、日本における韓国語教育の現状を調査統計によって知ることができた。「先生は過去からの難民で、学生は未来からの留学生である」という話がある。まさに学校教育は未来からの留学生を預かっているようなものだ。将来の地球人を描きながら、現在の国際感覚を持って教育しなければならない。韓国からすでに多くの情報を様々なホームページへの接続により入手することができ、日韓関係はより深く結ばれつつある。学習者もかつての条件とはかなり異なってきた。このような時代と若い世代の要求に応えるためには教育に携わる公的機関や教育者が責任を持って置かれている様々な問題を解決していかなければならない。

まず、日韓の歴史認識を正しくして、より多くの専門的人材を育てなければならない。教員の不足や教材の不備による現実の問題を文部省と大学側が解決していかなければならない。現在高等学校において他教科の免許を持って韓国・朝鮮語を兼任している教員のために、一定の研修を通して正式に担当科目の免許を与えるように教育の課程を置かなければならない。多くの専門家が輩出されれば歴史、文化、文学、経済、社会、科学など必要な教材も自然に豊富になるであろう。

最後に、ことばが脳にインプットされる中学校、小学校の低学年における韓国語の教育がもっとも大事であると思う。

注 表10～13は、2000年6月現在、駐日韓国大使館教育官室の調査に基づいて、インターネット等を利用し国立、公立、私立、短大に分けて年代別、地域別にまとめたものである。原資料に準じて作成したため、設置学科名や年度、教員数、学生数などに実際とは異なる点があることを申し上げておく。

<表10>

国立大学

<設置年度順>

大学名	現 況				
	設置学科	設置年度	教員数	学生数	地域
信州大学	教養学部	1945	2	220	長野
金沢大学	教養科目	1949	3	200	石川
九州大学	文学部、言語文化部	1974	2	881	福岡
東京外国語大学	朝鮮語科	1977	7	158	東京
富山大学	人文学部	1978	2	8	富山
静岡大学	言語文化学科	1983	1	6	静岡
一橋大学	教養学部	1986	3	316	東京
名古屋大学	韓国朝鮮語学科	1987	3	63	愛知
お茶の水女子大学	教養学部	1988	1	55	東京
福岡教育大学	国際共生教育講座	1991	2	100	福岡
岡山大学	教養学部	1992	1	15	岡山
琉球大学	社会人類学科	1993	3	60	沖縄
東京大学	教養学部	1993	3	12	東京
山口大学	経済学部、人文学部	1994	3	110	山口
三重大学	共通教育機構	1995	未公開	未公開	三重
小樽商科大学	教養科目	1995	1	42	北海道
愛知教育大学	教養科目	1996	2	未公開	愛知
茨城大学	人文学科、コミュニケーション学科	1996	3	152	茨城
佐賀大学	文化教育学部、全学教育センター	1996	4	104	佐賀
宇都宮大学	国際社会学科、国際文化学科	1996	2	52	栃木
大分大学	教育学部	1997	1	250	大分
熊本大学	一般教養講座	1998	1	78	熊本
香川大学	教養学部	1998	1	20	香川
宮城教育大学	韓国語講座	未詳	2	26	宮城
新潟大学	アジア文化履修課程	未詳	2	7	新潟
横浜国立大学	国際共生社会課程	未詳	1	8	神奈川
弘前大学	教養学部	未詳	2	150	青森
大阪外国語大学	韓国語学科	未詳	20	230	大阪
大阪大学	教養学部	未詳	1	70	大阪
神戸大学	教養学部	未詳	2	105	兵庫

<表11>

公立大学

<設置年度順>

大学名	現 況				
	設置学科	設置年度	教員数	学生数	地域
神戸市外国語大学	教養学部	1981	1	79	兵庫
下関市立大学	経済学部	1983	2	50	山口
大阪女子大学	教養学部	1987	1	40	大阪
都留文科大学	教養学部	1988	1	80	山梨
県立広島女子大学	教養学部	1990	3	70	広島
熊本県立大学	教養学部	1991	1	52	熊本
東京都立大学	教養学部	1993	2	45	東京
長崎県立大学	教養学部	1993	2	143	長崎
高崎経済大学	教養学部	1994	1	86	群馬
大阪府立大学	教養学部	1994	1	206	大阪
横浜市立大学	国際文化学部	1995	1	6	神奈川
福井県立大学	教養学部	1996	1	40	福井
大分県立看護科学大学	看護学科	1998	1	80	大分
京都府立大学	教養学部	1999	1	34	京都
静岡県立大学	アジア文化コース	未詳	2	21	静岡

<表12>

私立大学

<設置年度順>

大学名	現 況				
	設置学科	設置年度	教員数	学生数	地域
天理大学	朝鮮学科	1927	6	175	奈良
津田塾大学	国際関係学科	1969	2	96	東京
大阪芸術大学	教養学部	1976	1	161	大阪
大正大学	教養学部	1976	1	107	東京
九州産業大学	教養学部	1978	12	1818	福岡
名古屋学院大学	教養学部	1981	1	24	愛知
九州国際大学	教養学部	1982	5	207	福岡
神戸国際大学	教養学部	1982	1	28	兵庫
関西外国語大学	教養学部	1983	1	210	大阪
大阪経済大学	教養学部	1984	2	88	大阪
国際基督教大学	語学科	1984	2	60	東京
昭和女子大学	教養学部	1984	1	103	東京
法政大学	国際文化学部	1984	10	286	東京
中部大学	国際関係学科	1985	1	45	愛知
京都学園大学	教養学部	1986	3	227	京都
佛教大学	教養学部	1986	4	308	京都
四国学院大学	教養学部	1986	1	60	香川
東京国際大学	国際関係学部	1986	2	176	埼玉
大阪商業大学	教養学部	1986	1	10	大阪
立教大学	教養学部	1986	1	63	東京
作新学院大学	教養学部	1986	1	30	栃木
新潟経営大学	教養学部	1987	1	100	新潟
神田外語大学	外国語学部	1987	11	115	千葉
関東学院大学	教養学部	1988	1	125	神奈川
大阪経済法科大学	教養学部	1988	1	92	大阪
恵泉女学園大学	人文学部	1988	4	180	東京
創価大学	教養学部	1988	2	65	東京
帝京大学	文学部、国際文化学科	1988	3	126	東京
流通経済大学	教養学部	1989	1	55	茨城

<表12>

私立大学

<設置年度順>

大学名	現 況				
	設置学科	設置年度	教員数	学生数	地域
大谷大学	教養学部	1989	3	319	京都
阪南大学	教養学部	1989	2	77	大阪
追手門学院大学	教養学部	1989	1	8	大阪
早稲田大学	教養学部	1989	3	340	東京
関西学院大学	教養学部	1989	1	71	兵庫
神戸女学院大学	教養学部	1989	1	24	兵庫
中京大学	教養学部	1990	5	200	愛知
名古屋商科大学	教養学部	1990	1	133	愛知
熊本学園大学	教養学部	1990	6	300	熊本
広島修道大学	韓国語	1990	2	180	広島
松阪大学	教養学部	1990	1	32	三重
東海大学	文学部	1990	1	42	東京
明星大学	教養学部	1990	2	149	東京
富山国際大学	第2外国語	1990	1	47	富山
福岡女学院大学	教養学部	1990	3	30	福岡
日本福祉大学	教養学部	1991	2	45	愛知
京都産業大学	教養学部	1991	1	48	京都
獨協大学	教養学部	1991	2	77	埼玉
青山学院大学	教養課程、第2外国語	1991	2	145	東京
秋田経済法科大学	教養学部	1992	1	40	秋田
北陸大学	外国語学部	1992	2	81	石川
東京女子大学	地域文化学科	1992	3	82	東京
武蔵野女子大学	教養学部	1992	2	272	東京
久留米大学	文学部、経済学部	1992	3	251	福岡
九州共立大学	経済学部	1992	1	50	福岡
甲南大学	教養学部	1992	4	250	兵庫
名古屋女子大学	教養学部	1993	1	149	愛知
相愛大学	教養学部	1993	1	8	大阪
ルーテル学院大学	教養学部	1993	1	6	東京

<表12>

私立大学

<設置年度順>

大学名	現 況				
	設置学科	設置年度	教員数	学生数	地域
桜美林大学	地域言語	1993	2	58	東京
愛知淑徳大学	文学部	1994	2	70	愛知
名城大学	商学部	1994	1	18	愛知
つくば国際大学	教養学部	1994	1	142	茨城
呉大学	韓国語	1994	1	240	広島
鈴鹿国際大学	教養学部	1994	1	38	三重
鹿児島経済大学	教養学部	1994	3	160	鹿児島
新潟国際情報大学	第1外国語	1994	4	25	新潟
静岡産業大学	教養学部	1994	1	76	静岡
日本文理大学	韓国語講座	1994	1	50	大分
北海道東海大学	教養学部	1994	2	40	北海道
川崎医療福祉大学	教養学部	1995	2	71	岡山
金沢学院大学	経営情報学部	1995	1	49	石川
立正大学	教養学部	1995	2	265	東京
二松学舎大学	比較文学科	1996	5	260	東京
聖和大学	教養学部	1997	1	54	兵庫
愛知大学	比較文化学部	1998	7	90	愛知
金城学院大学	現代文化学部	1998	1	41	愛知
九州看護福祉大学	看護学科、社会福祉学科	1998	2	18	熊本
広島国際大学	韓国語	1998	1	200	広島
福岡国際大学	国際コミュニケーション科	1998	3	597	福岡
梅光女学院大学	外国語科	1999	1	19	山口
フェリス女学院大学	教養学部	1999	4	65	神奈川
福岡大学	東アジア地域語学科	1999	7	72	福岡
松山大学	教養学部	未詳	2	108	愛媛
東京家政学院筑波女子大学	教養学部	未詳	1	200	茨城
就実女子大学	教養学部	未詳	1	40	岡山
花園大学	教養学部	未詳	3	180	京都
同志社大学	言語文化教育	未詳	1	217	京都

<表12>

私立大学

<設置年度順>

大学名	現 況				
	設置学科	設置年度	教員数	学生数	地域
立命館大学	韓国語講座	未詳	1	567	京都
龍谷大学	韓国語講座	未詳	2	112	京都
第一工業大学	教養学部	未詳	3	140	鹿児島
東京情報大学	教養学部	未詳	1	8	千葉
大阪国際大学	教養学部	未詳	1	79	大阪
大阪産業大学	教養学部	未詳	2	40	大阪
別府大学	国文学科	未詳	1	30	大分
上智大学	文学科、史学科	未詳	2	288	東京
拓殖大学	教養学部	未詳	2	286	東京
中央大学	教養学部	未詳	8	163	東京
東京理科大学	教養学部	未詳	1	91	東京
日本大学	国際関係学部、教養学部	未詳	6	106	東京
武蔵大学	教養学部	未詳	2	16	東京
明治学院大学	国際学部	未詳	1	7	東京
西南学院大学	教養学部	未詳	3	140	福岡
第一経済大学	教養学部	未詳	1	6	福岡
東和大学	教養学部	未詳	1	400	福岡
東日本国際大学	ハングル講座	未詳	1	5	福島

<表13>

短期大学

<設置年度順>

大学名	現 況			
	設置学科	設置年度	教員数	学生数
昭和女子大学短期大学	韓国語	1981	1	7
福岡女学院短期大学	ハングル語	1984	1	32
大阪キリスト教短期大学	韓国語	1984	1	24
小樽女子短期大学	ハングル語	1986	1	15
同志社女子大学短期大学	ハングル語	1986	1	28
平安女学園短期大学	コリア語	1986	2	180
青森明星短期大学	韓国語	1987	1	25
京都文化短期大学	ハングル語	1987	1	31
聖母被昇天学院女子短期大学	韓国語、朝鮮語	1988	1	11
京都経済短期大学	コリア語	1989	1	158
三育学院短期大学	韓国語	1989	1	8
聖泉短期大学	コリア語	1989	1	32
稚内北星学院短期大学	ハングル語	1989	1	20
広島中央女子短期大学	ハングル語	1989	1	未詳
県立新潟女子短期大学	韓国語	1990	4	85
敦賀女子短期大学	朝鮮語	1991	1	13
折尾女子経済短期大学	未詳	1991	1	34
島根県立国際短期大学	韓国語	1991	1	89
西南女学院短期大学	ハングル語	1991	1	163
大阪産業大学短期大学部	朝鮮語	1991	2	100
京都芸術短期大学	コリア語	1992	1	未詳
熊本学院大学短期大学	韓国語	1992	6	300
長崎外国語短期大学	韓国語	1992	1	13
名古屋短期大学	朝鮮語	1992	1	28
大阪成蹊女子短期大学	韓国語	1992	1	12
大阪女学院短期大学	朝鮮語	1993	1	79
小松短期大学	韓国語	1993	1	80
佐賀女子短期大学	韓国語	1993	1	9
清泉女学院短期大学	ハングル語	1993	1	16
山口短期大学	ハングル語	1994	1	19
宇部短期大学	朝鮮語	1996	1	18
純真女子短期大学	ハングル語	1996	1	未詳
北海道女子短期大学	教養科目	1997	1	17
尚絅女子短期大学	ハングル語	未詳	1	15